

# 「下刈省力化に向けた大苗植栽に係る現地検討会」及び

## 「電動苗木運搬車実演」を開催しました

令和4年4月19日実施

関東森林管理局 茨城森林管理署

### 【大苗植栽】

酷暑時や急傾斜地での作業が多い下刈作業は従事者への負担が非常に大きく、作業の省力化が喫緊の課題であることから、茨城森林管理署は令和4年4月19日に「下刈省力化に向けた大苗植栽に係る現地検討会」を森林総合研究所林木育種センター・茨城県林業種苗協同組合の共催で開催しました。（茨城県笠間市平町 北山国有林 252 林班ぬ2 林小班）

多くの人工林が主伐の時期を迎え、伐採後の再生林(植栽)面積が増大するステージにきています。その中で、植栽後の生育を促す下刈作業は過酷な作業であること、また今後の作業従事者の減少を鑑み大苗植栽による下刈作業の回数を減らすことにより、労働過重を軽減することが必須の課題です。

今回の大苗植栽の取組は、通常規格のスギ苗木(長さ45cm)よりも大きなスギ苗木(長さ約100cm)を植栽することで下草との競合の早期脱出を目指すと共に、下刈省力化を図ることを目的として実施しました。

使用したMスターコンテナ苗(大苗)は、育苗に手間がかかりますが、①根の状況を確認しやすい②根鉢を付けたまま現地へ持って行くことから、根の保護をすると共に発根性を促す効果が期待できる等のメリットがあります。

検討会を開催した大苗の植栽地については、今後3年間は下刈作業を実施せず、植栽木の経過観察をしながら、苗木の生産から植栽後の下刈作業の削減によるコストを比較するなど、今後の森林施業の指針となるような取組を推進していきます。



現地検討会の様子



右が大苗 左2本が通常苗



植栽実演の様子

### 【電動苗木運搬車】

一般的に苗木の植付作業は、急傾斜地・不整形地など様々な地形があることから大型機械の導入には軽量化が難しい作業です。このような中で、今回紹介する電動運搬車は、森林総合研究所・茨城県森林組合連合会・(株)コウメイの三者による共同開発によるもので、小型で小回りが効き、機動力が高い運搬車を開発することで、作業従事者が苗木を背負っての運搬から解放され労働過重の軽減に資すると共に、電動の特性である騒音も少なく、昇り下りの速度も一定であるといったメリットを有しています。

更には、苗木を運搬しながら植栽も実施できる機能を備えており、一層の効率性が期待できます。

現地検討会には、茨城県や各市町、林業関係者の総勢85名が集まり、大苗植栽の概要説明の後、体験植栽を実施すると共に、電動苗木運搬車実演を見学する中で、実施にあたっての意見交換が行われました。

今後も、森林林業の現場において効率化や低コスト化等に向けて、多種多様な取組を検討していく予定です。



電動苗木運搬車



運搬・植栽の様子